

科学と人間生活との関わりを実感させる 理科の授業づくりに関する研究

研究の背景

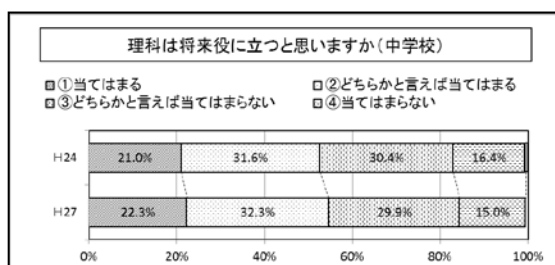
①学習指導要領の趣旨

【改善の基本方針】(中学校・高等学校学習指導要領解説理科編)

理科を学ぶことの意義や有用性を実感する機会をもたせ、科学への関心を高める観点から、実社会・実生活との関連を重視する内容を充実する方向で改善を図る。

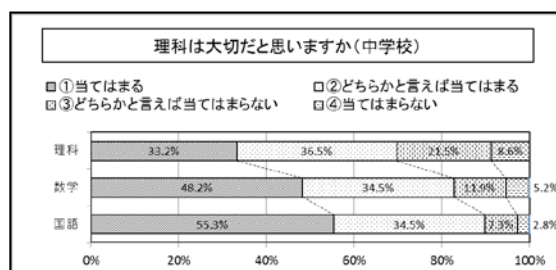
②全国学力・学習状況調査

【過年度比較】(平成24年度・平成27年度)



→肯定的な回答が微増したが、依然として課題がある。

【他教科との比較】(平成27年度)



→他教科に比べ、肯定的な回答が少ない。

研究の目的

「科学的な知識や概念を活用」し、「実社会や実生活と関連付け」ながら、科学を学ぶ意義や有用性を実感させ、科学への関心を高める学習活動や授業実践を提案する。

研究の内容

理科に対する意識について生徒アンケート調査、分析

- 生徒が考える、科学と日常生活との関わりとはどのようなものか
- 理科に対して、どのような意識をもっているか

理科の授業改善に向けた方策の検討

- 素材、教材の工夫
- 地域素材の教材化
- 日常生活の現象への焦点化
- 授業展開、指導方法の工夫
- 単元構想
- 学習内容の精選

生徒が自ら学び、自ら気付く授業の実践

- 観察、実験の重視
- 「アクティブ・ラーニング」の視点